

＜県研究主題＞

これからの生活を見通し、よりよい生活を創造するとともに、社会の変化に主体的に対応する能力や実践的な態度を育てる学習指導と評価の工夫・改善

提案 1

提案者 岡田 智弘・望月 克高（川崎地区）

＜研究主題＞

実践的な態度を育てる学習指導と評価の工夫～生活を工夫し創造する能力の育成をめざして～

1 提案内容

川崎市では、平成22年度第49回関東甲信越地区中学校技術・家庭科研究大会・神奈川大会（以下、「関ブロ（神奈川大会）」）にて、「情報に関する技術」の発表提案を行った。また、毎年、川崎市で取り組んでいる中学校学習指導事例集では、平成24年度から「実践的な態度を育てる学習指導と評価の工夫」というテーマのもと、「生活を工夫し創造する能力」の育成をめざした研究を継続的に行ってきた。この実践的な研究の積み重ねが、「これからの生活を見通し、よりよい生活を創造するとともに、社会の変化に主体的に対応する能力や実践的な態度を育てる学習指導と評価の工夫・改善」につながると考え、本提案の研究テーマとした。

（1）川崎市での継続的な取り組み

平成22年度の「関ブロ（神奈川大会）」にて「情報に関する技術を適切に評価し活用する力をはぐくむ指導の工夫」とし、技術を適切に評価し活用する内容に関する研究を行った。「関ブロ（神奈川大会）」では、評価方法の工夫として、「生活を工夫し創造する能力」の評価については、アセスメントシートへの記載内容を読み取ることを提案した。

具体的には、授業で学んだ内容を踏まえた上で、技術についてのプラス面、マイナス面について分析できた生徒はおおむね満足（B）と判断し、さらに分析した技術をどのように活用していくか具体的に記載できた生徒は十分満足の（A）と判断するとした。

上記の記述内容を見ると、Bと判断した生徒は、プラス面、マイナス面の分析はできているが、分析した技術をどのように活用していくかの具体的な記載がない。また、Aと判断した生徒には、自分が大人になってパソコンを使う場面を想定した記載があることがわかる。

また、「関ブロ（神奈川大会）」以降も川崎では、学習指導事例集において、「実践的な態度を育てる学習指導と評価の工夫」というテーマのもと、「生活を工夫し創造する能力」の育成をめざした研究を授業実践を通して積み重ねてきた。

（2）昨年度の学習指導事例集の概案

これまでの実践授業研究を通して、授業では基礎的・基本的な「生活の技能」や「生活や技能についての知識・理解」を身に付けさせた後、それらを土台とする学習活動を行うことで、「生活を工夫し創造する能力」を効果的に育むことがわかってきた。また、この能力を育成するためには、生徒の思考の流れに沿うようにしてワークシートや授業を計画的に作り、繰り返し実践していくことが効果的であることもわかってきた。

これらの成果をもとにしながら、題材ごとに「生活を工夫し創造する能力」の育成を考えるだけでなく、3年間の指導計画を見通し、学習の連続性を意識しながら実施していくこと

の重要性を考えた研究を行った。

なお、その際、言語活動の充実を図るために、学年ごとのポイントはどのようにすればよいのか、という点においても検証しながら授業実践を行った。

2 昨年度の研究授業の報告

「エネルギー変換に関する技術」において、題材計画やワークシートを工夫することで、生活を工夫し創造する能力の育成をめざした授業実践を行った。この授業では、題材末において、「自分で考える」「他人から学ぶ」「自分の意見を再考する」といった流れで授業を実践し、生徒の思考活動を活性化させた。更に、次年度に計画している「情報に関する技術」の計測・制御に関連する内容にも触れ、3年間の学習につながりを持たせる工夫も行った。

3 研究の成果と課題

題材ごとに、どの段階で何をねらって授業を行うのか、学習指導やその評価を工夫・充実させることで、生徒の記述内容に自分の思いが込められるようになった。また、話し合い活動においても、自信を持って自分の意見を述べる生徒が多く見られるようになっていった。さらに、言語活動の充実をめざした取組では、ワークシート作成の工夫を行うとともに、1年生の頃から継続的に指導をしていくことで、学年に応じた成長が見られるようになった。

これらの成果から、「生活を工夫し創造する能力」を、次の題材においても生かす授業づくりの工夫や、各学年の発達段階に応じた言語活動を探っていく必要があると考えている。

そして今後も、生徒自らの活動が活発になり、生き生きとした表情で見通しを主体的に持って問題解決を行っていけるような授業づくりを探っていきたい。

4 協議内容

協議の柱「思考力、判断力、表現力等を含む学習プロセス作りの工夫について」

(1) 協議1：生活を工夫し創造する能力を育む指導の工夫について

- ・どのような計画や工夫について問いかけをして創造力を育むことができるのか課題である。
- ・一度、栽培を通して基本の知識を身につけたあと、生徒が自ら再度、栽培を実践する。
- ・フローチャートを使って生物育成に関する管理や作業をまとめる。
- ・考えさせる題材や課題を用意する。
- ・生物育成で困っていることを全体で共有し、話し合う。
- ・個、集団、個での言語活動を充実させ、教科の協力を経てグループ活動を活発化させる。
- ・記入内容から工夫を評価している。

(2) 協議2：思考力、判断力、表現力等の評価方法の工夫について

- ・ワークシートやプリントの記述内容の評価規準を明確にし、精度の向上を図る。
- ・様々な評価について学ぶことで、規準を明確にし、複数の資料を見ていく。

5 まとめ

社会的、経済的な側面から考えなければならないが、発達段階に応じて評価していくことも大切である。自ら課題を考えて設計できることや言語活動によるコミュニケーション能力を身に付け変化の激しい社会で生きていく子どもたちを育てていかなければならない。

<研究主題>

「子どもの思考力・判断力・表現力を引き出すための題材の研究と評価」

1 提案内容

「B食生活と自立」のウ『食生活についての課題と実践』において学校の授業で学んだことを、実生活で実践しようとする意欲と思考・判断・表現を引き出すために、他教科との関連も踏まえた適切な題材の設定と、それらを適切に評価するための指導方法の工夫を研究テーマとして設定した。

2 研究の視点と成果・課題

(1) 小学校での学習を踏まえ、中学校における基礎・基本を明確にした題材開発

〈成果〉生徒は今まで学んだ様々な知識を生かした実践により課題解決ができたことを実感した。食生活は、食料経済や環境にも深く影響を与えることを理解する様子が、ワークシートの記述の内容で確認することができた。

〈課題〉平和教育や人権教育、開発教育といったテーマにも思考を広げていくことが可能であるが、そこまで深めた学習にすることが困難であった。今後、他教科や他領域で学習していく項目と食生活を関連させて、もっと広い視野で生活を捉えさせていくための継続した指導を考えたい。

(2) 生徒の実態を踏まえた、思考の過程が見える題材の設定と学資指導の工夫

〈成果〉調理実習の振り返りと実際の調理場面を想定した課題に取り組みせることで、調理技能の向上が環境に配慮した食生活の実践につながることを気付かせることができた。また、グループ活動の発言の場面では、生活経験の違う生徒たちの経験が相互に有機的に関連していた。

〈課題〉生活の課題を発見する場面では、それを実生活の具体的な課題と捉えて解決する方法を考察するまでには至らなかった。安全性や日本の農業の存続、食事形態の変化なども踏まえた課題解決と具体的な解決方法を考える題材開発を行う必要がある。

(3) 思考力・判断力・表現力を適切に評価する評価計画の作成

〈成果〉本時の学習を始める前と終わった後に、その課題に対する意識がどのように変化したかを見取ることとした。まとめの記述において、課題設定時よりも食生活について幅広く関心を持っていく変化の過程を見取ることができた。

〈課題〉評価については、子どもたち自身が現在どのような状況なのかを認識し、改善に向けてどのように取り組んだら良いのかを考える手立てとして示すことができなかった。今後は、どの題材のどの部分をどのような方法で評価を示していくのが課題である。

3 協議内容

(1) 生活を工夫し創造する能力を育む指導の工夫について

・提案のワークシートは、思考の過程が分かるようなワークシートでよい。

- ・考えを言語化しワークシートに書くことができない生徒もいる。教員側で助言をするのだが、みんな同じことを書くこともある。
- ・生活を工夫し創造する力とは何か。各領域・各単元で明確にしなければならない。
- ・3年間を通して生活を工夫し創造する力を育む必要がある。
- ・製作は、授業時間の確保が課題である。ねらいを明確にし、作業を通じて積み重ねていく学びを見通したい。

(2) 思考力、判断力、表現力等の評価方法の工夫について

- ・ワークシート等の記述をどのように評価するのか、研究を深めたい。
- ・ワークシート等の評価の視点をあらかじめ明確にし、規準が客観的に判断できるように研究を重ねたい。
- ・どのような力を生徒につけさせるのか、意識的に取り組ませる必要がある。評価についても同じことが言えるのではないか。
- ・本時の目標を書かせ、今日の授業で何を学んだかを自分の意見として書かせる。そして、次の時間に「十分満足できる」と評価したものを発表するなどし、他者の意見を聞き参考にすることも大切である。

4 まとめ

地区ごとに研究を進めているが、もう一度地区の方向性がこれでよいのか確認をする必要がある。「生活の課題と実践」では、自分の生活を振り返り、実践と追究から家庭に返すことが大切である。時間数などが絡み、生徒個人で実践させることが厳しく、グループで実践させることが多い。しかし個々で実践させ追究できるような実践が必要である。例えばグループで活動しても、個々にまとめをするなどの方法を考えたい。

・自分と家庭、社会との「つながり」

価値判断は、個人だけでなく社会や地球規模で考えられることが大切である。

・学びの「つながり」

小学生から中学生への発展の連続性・系統性・学びの土台が大切であり、生徒に何を学ばせ、どんな力を身に付けさせたいのかを明確にした目標が必要である。

・評価の「つながり」

結果としての創意工夫だけではなく、過程を含めて評価が必要。ワークシート等を活用し、課題解決の足跡が分かるようにしたい。評価はコミュニケーション。「努力を要する」評価の生徒が、「おおむね満足できる」評価になるような指導（教員からの励ましの言葉・生徒同士の学び・授業中のサポートなど）が大切である。